



SMT 世界経済インデックス・オープン(株式シフト型)

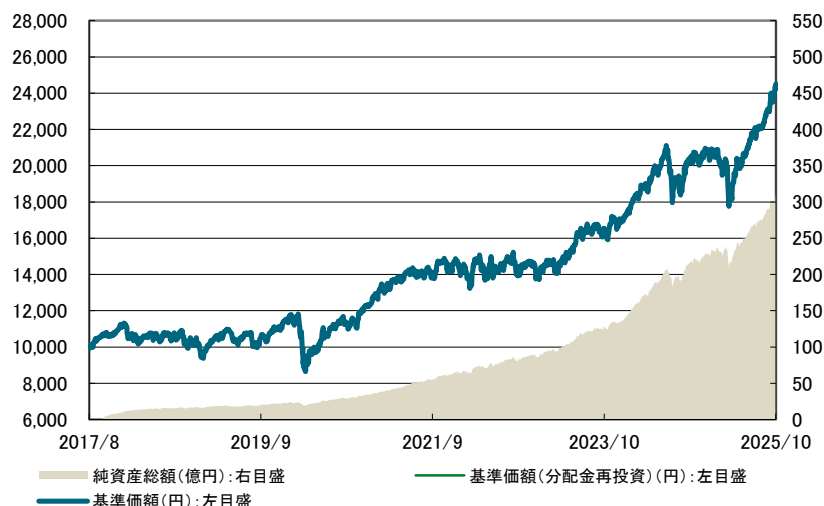
追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2025年10月31日



基準価額の推移



※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。

※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	24,515 円	+ 1,435 円
純資産総額	311.23 億円	+ 20.57 億円

期間別騰落率

	騰落率
1ヵ月	6.22%
3ヵ月	11.38%
6ヵ月	28.46%
1年	19.57%
3年	67.89%
設定来	145.15%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 0 円

決算期	2023年6月	2024年6月	2025年6月
分配金	0 円	0 円	0 円

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

マザーファンドの月間騰落率

マザーファンド	騰落率
国内株式インデックス マザーファンド	6.20%
国内債券インデックス マザーファンド	0.17%
外国株式インデックス マザーファンド	5.80%
外国債券インデックス マザーファンド	3.86%
新興国株式インデックス マザーファンド	9.01%
新興国債券インデックス マザーファンド	4.07%

ファンドの運用状況

当月は、全ての資産のパフォーマンスがプラスとなり、ファンドの基準価額は上昇しました。

株式は、米CPI(消費者物価指数)が市場予想を下回ったことで月末のFOMC(米連邦公開市場委員会)での利下げ観測が高まったことや、AI(人工知能)関連やデータセンターへの巨額投資が発表されたことなどからハイテク関連株を中心に上昇しました。日本、先進国、新興国はプラスに寄与しました。

債券は、月末のFOMCを見据えた利下げ観測、米中対立激化懸念、一部金融機関で信用不安が浮上したことなどから、利回りは低下(価格は上昇)しました。国内債券は、日銀の早期利上げ観測の後退が金利低下要因となった一方、財政の先行き懸念が金利上昇要因となり、利回りはほぼ横ばいとなりました。日本、先進国、新興国はプラスに寄与しました。

今後の運営方針としては、地域別のGDP(国内総生産)総額の比率に基づき決定した基本組入比率に則り、世界の株式および債券への分散投資を行いつつ、世界経済の全体の発展に追従する中長期的な投資信託財産の成長を目指して運用を行っていきます。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



SMT 世界経済インデックス・オープン(株式シフト型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2025年10月31日



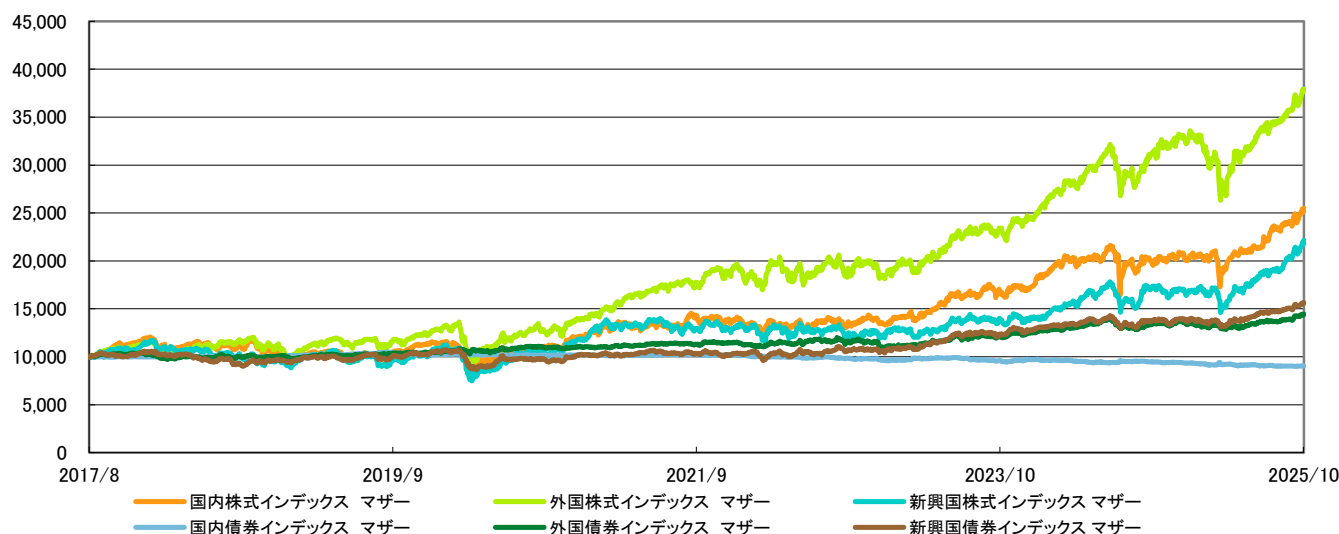
マザーファンドの状況

マザーファンド	資産構成比	基本組入比率	差	基準価額騰落貢献額
国内株式インデックス マザーファンド	3.76%	3.75%	0.01%	55 円
国内債券インデックス マザーファンド	1.18%	1.25%	-0.07%	0 円
外国株式インデックス マザーファンド	40.26%	40.50%	-0.24%	554 円
外国債券インデックス マザーファンド	12.85%	13.50%	-0.65%	101 円
新興国株式インデックス マザーファンド	31.26%	30.75%	0.51%	687 円
新興国債券インデックス マザーファンド	9.75%	10.25%	-0.50%	84 円
その他	0.94%	-	-	- 46 円
合計	100.00%	100.00%	-	1,435 円

※ 対純資産総額比です。

※ 各マザーファンドのベンチマークについては、9ページをご覧ください。

マザーファンドの基準価額の推移



※ 当ファンドへの組入開始時を10,000として指数化し、作成基準日までを表示しています。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	比率
1	米国	37.11%
2	台湾	6.30%
3	日本	5.88%
4	インド	5.78%
5	ケイマン島	5.72%
6	中国	5.72%
7	韓国	3.96%
8	英国	2.39%
9	フランス	2.04%
10	ブラジル	1.77%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10通貨

	通貨	比率
1	米国ドル	38.23%
2	香港ドル	7.62%
3	ユーロ	7.61%
4	台湾ドル	6.24%
5	日本円	6.09%
6	インド・ルピー	5.66%
7	韓国ウォン	3.88%
8	オフショア人民元	3.51%
9	英国ポンド	2.26%
10	南アフリカ・ランド	1.78%

※ 対純資産総額比です。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



SMT 世界経済インデックス・オープン(株式シフト型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2025年10月31日



国内株式インデックス マザーファンドの資産の状況

資産内容

株式	97.61%
株式先物取引	2.35%
短期金融資産等	0.04%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	電気機器	19.24%	19.39%
2	銀行業	9.25%	9.24%
3	情報・通信業	8.38%	8.37%
4	卸売業	7.22%	7.21%
5	輸送用機器	6.81%	6.79%
6	機械	6.38%	6.37%
7	化学	4.50%	4.49%
8	小売業	4.40%	4.39%
9	サービス業	3.55%	3.56%
10	医薬品	3.47%	3.46%

※ 対現物株式構成比です。

組入上位10銘柄

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	3.44%
2	ソニーグループ	電気機器	3.08%
3	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.04%
4	日立製作所	電気機器	2.82%
5	ソフトバンクグループ	情報・通信業	2.76%
6	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.86%
7	三菱重工業	機械	1.82%
8	任天堂	その他製品	1.70%
9	三菱商事	卸売業	1.61%
10	アドバンテスト	電気機器	1.50%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 1,656

市場動向

国内株式市場は上昇しました。月前半は、自民党総裁選で高市氏が選出されたことで、政府の成長戦略への期待が高まり、海外投資家からの買いが入り上昇しました。月後半は、公明党が連立政権から離脱したことで一時政局混迷の懸念が高まったものの、新政権に日本維新の会が加わることとなり、政局の不透明感が薄れたことなどが好感され上昇しました。月末にかけては、米国の利下げや日銀の利上げ見送り、米ハイテク関連株の上昇や国内半導体関連銘柄の良好な決算も株価上昇の支えとなりました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



SMT 世界経済インデックス・オープン(株式シフト型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2025年10月31日



国内債券インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 債券評価額には経過利子を含めています。

資産内容

債券	100.17%
債券先物取引	0.00%
短期金融資産等	-0.17%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

特性値

	ファンド	ベンチマーク
残存年数	10.47 年	10.48 年
修正デュレーション	8.18	8.15
最終利回り	1.62 %	1.62 %
銘柄数	1,134	-

※ 修正デュレーションとは債券価格の金利変動に対する感応度(変動率)を表しており、この値が大きいほど金利変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

※ 利回り(税引前)は純資産総額に対する値、その他は組入債券に対する値です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

種類別構成比

種類	ファンド	ベンチマーク
国債	85.13%	85.04%
地方債	5.79%	5.85%
政府保証債	1.29%	1.24%
金融債	0.28%	0.29%
事業債	6.10%	6.10%
円建外債	0.31%	0.32%
MBS	1.08%	1.10%
ABS	0.01%	0.06%

※ 対現物債券構成比です。

残存期間別構成比

残存年数	ファンド	ベンチマーク
1年未満	0.00%	0.00%
1年以上3年未満	21.41%	21.69%
3年以上7年未満	29.62%	29.42%
7年以上10年未満	17.65%	17.12%
10年以上	31.32%	31.77%

※ 対現物債券構成比です。

市場動向

国内債券市場では、10年国債利回りが小幅に上昇(価格は下落)しました。月前半は、主に1.6%台半ばから後半を中心に推移しました。4日に行われた自民党総裁選で高市氏が勝利したことを受けて、日銀の早期利上げ観測後退が金利低下要因となった一方、財政の先行き懸念が金利上昇要因となり、売り買いが交錯しました。月後半は、方向感のないなか概ね1.6%台後半で推移しました。日銀金融政策決定会合では大方の予想どおり金融政策の現状維持が決まったため、売買の手掛かりにはならず、月間で利回りは小幅に上昇しました。



SMT 世界経済インデックス・オープン(株式シフト型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2025年10月31日



外国株式インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 株式には投資信託等を含みます。

資産内容

株式	98.68%
株式先物取引	1.28%
短期金融資産等	0.04%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	ファンド	ベンチマーク
1	米国	77.16%	76.92%
2	英国	3.80%	3.77%
3	カナダ	3.41%	3.41%
4	フランス	2.76%	2.77%
5	ドイツ	2.46%	2.43%
6	スイス	2.38%	2.36%
7	オーストラリア	1.71%	1.70%
8	オランダ	1.27%	1.28%
9	スペイン	0.92%	0.92%
10	イタリア	0.82%	0.82%

※ 対現物株式構成比です。

組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	半導体・半導体製造装置	12.02%	11.96%
2	ソフトウェア・サービス	10.37%	10.37%
3	資本財	7.69%	7.67%
4	メディア・娯楽	7.53%	7.50%
5	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	7.10%	7.07%
6	金融サービス	6.88%	6.90%
7	銀行	6.51%	6.53%
8	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	6.16%	6.16%
9	一般消費財・サービス流通・小売り	4.77%	5.02%
10	エネルギー	3.48%	3.48%

※ 対現物株式構成比です。

※ 業種はGICS分類(産業グループ)によるものです。GICSに関する知的所有権等はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。

組入上位10銘柄

	銘柄	国・地域	比率
1	NVIDIA CORP	米国	6.30%
2	APPLE INC	米国	5.16%
3	MICROSOFT CORP	米国	4.72%
4	AMAZON.COM	米国	2.71%
5	BROADCOM INC	米国	2.14%
6	ALPHABET INC-CL A	米国	2.08%
7	META PLATFORMS INC-CLASS A	米国	1.84%
8	ALPHABET INC-CL C	米国	1.77%
9	TESLA INC	米国	1.62%
10	JPMORGAN CHASE & CO	米国	1.09%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 1,143

市場動向

米国株式市場は上昇しました。月前半は、高値警戒感が意識されるなか、中国がレアアースの輸出規制を発表したことや、トランプ米大統領が対中関税の引き上げを示唆したことなどが嫌気され、また、米政府機関の閉鎖も重石となり下落しました。月後半は、9月の米CPI(消費者物価指数)が市場予想を下回ったことで月末のFOMC(米連邦公開市場委員会)での利下げ観測が高まったことなどから上昇しました。

欧州株式市場は上昇しました。月前半は、米国の利下げ観測などが追い風となり消費関連株などを中心に上昇しました。また欧州委員会が、鉄鋼製品の無関税輸入枠をほぼ半減する案を発表したことで鉄鋼株なども買われ上昇しました。月後半は、米中貿易摩擦や米地銀の信用不安に対する投資家の懸念が和らいだことを背景に上昇しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



SMT 世界経済インデックス・オープン(株式シフト型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日
作成基準日 : 2025年10月31日



外国債券インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 債券評価額には経過利子を含めています。

資産内容

債券	98.94%
債券先物取引	1.51%
短期金融資産等	-0.45%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

特性値

	ファンド	ベンチマーク
直接利回り	2.81 %	-
最終利回り	3.30 %	3.32 %
残存年数	8.88 年	8.86 年
修正デュレーション	6.26	6.29
銘柄数	921	-

※ 利回り(税引前)は純資産総額に対する値、その他は組入債券に対する値です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	ファンド	ベンチマーク
1	米国	46.34%	46.27%
2	中国	11.39%	11.68%
3	フランス	7.25%	7.23%
4	イタリア	6.77%	6.76%
5	ドイツ	5.76%	5.70%
6	英国	5.73%	5.68%
7	スペイン	4.44%	4.38%
8	カナダ	1.99%	2.02%
9	ベルギー	1.52%	1.51%
10	オランダ	1.26%	1.25%

※ 対現物債券構成比です。

組入上位10通貨

	通貨	ファンド	ベンチマーク
1	米国ドル	46.34%	46.27%
2	ユーロ	29.64%	29.42%
3	オフショア人民元	11.39%	11.68%
4	英国ポンド	5.73%	5.68%
5	カナダ・ドル	1.99%	2.02%
6	オーストラリア・ドル	1.22%	1.23%
7	メキシコ・ペソ	0.84%	0.86%
8	ポーランド・ズロチ	0.68%	0.66%
9	マレーシア・リンギット	0.50%	0.51%
10	シンガポール・ドル	0.40%	0.40%

※ 対現物債券構成比です。
※ ベンチマークは中国・元の構成比になります。

市場動向

米国10年国債利回りは、低下(価格は上昇)しました。月前半は、月末のFOMC(米連邦公開市場委員会)を見据えた利下げ観測、米中対立激化懸念、一部金融機関で信用不安が浮上したことなどから低下し、一時4%を下回る場面がありました。月後半は、12月の追加利下げ観測の後退により金利は上昇に転じました。全体的には政府機関閉鎖の影響で経済・物価指標の公表が限られるなか、小幅な推移が続きました。

ドイツ10年国債利回りは、低下しました。月前半は、仏ルコルニュ内閣の総辞職を受けて「質への逃避」の買いが入ったことなどにより低下しました。月後半は独10月Ifo(Ifo経済研究所)景況感指数やユーロ圏の10月PMI(購買担当者指数)の改善などを背景に金利低下幅を縮小する展開となりました。

米ドル/円相場は、円安・米ドル高が進行しました。月前半は、自民党総裁選での高市氏選出をきっかけに円安が進行しました。積極財政への懸念や日銀の早期利上げ見通しの後退などが材料となりました。月後半は、米中関係悪化懸念の後退から米ドルが買い戻されたことに加え、高市政権の経済政策方針を受けて、円安・米ドル高で推移しました。月末にかけては、日銀の金融政策決定会合を受け、154円台まで円安が進みました。

ユーロ/円相場は、円安・ユーロ高が進行し178円台となり、史上最高値を更新しました。月前半は、高市氏の自民党総裁選出に伴い、円安・ユーロ高が進行しました。月後半も、ECB(欧州中央銀行)による利下げ打ち止め観測、高市政権の経済政策方針などを材料に円安・ユーロ高で推移しました。月末にかけては、日銀の金融政策決定会合を受け、一時178円台後半まで円安が進みました。



SMT 世界経済インデックス・オープン(株式シフト型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2025年10月31日



新興国株式インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 株式には投資信託等を含みます。

資産内容

株式	97.89%
株式先物取引	1.93%
短期金融資産等	0.18%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	比率
1	台湾	19.72%
2	ケイマン島	17.92%
3	インド	15.01%
4	韓国	12.41%
5	中国	10.24%
6	ブラジル	3.40%
7	サウジアラビア	3.12%
8	南アフリカ	2.88%
9	メキシコ	1.86%
10	アラブ首長国連邦	1.46%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10通貨

	通貨	比率
1	香港ドル	23.60%
2	台湾ドル	19.95%
3	インド・ルピー	15.01%
4	韓国ウォン	12.41%
5	オフショア人民元	3.51%
6	ブラジル・レアル	3.40%
7	南アフリカ・ランド	3.30%
8	サウジアラビア・リヤル	3.12%
9	米国ドル	2.40%
10	メキシコ・ペソ	1.86%

※ 対純資産総額比です。

※ マザーファンドを通じ、新興国の企業が米ドル建て等で発行する証券(預託証券(DR))にも投資します。したがって、通貨構成比は国・地域別構成比と異なることがあります。

組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	銀行	16.35%	16.39%
2	半導体・半導体製造装置	15.98%	16.10%
3	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	9.81%	10.03%
4	メディア・娯楽	7.42%	7.28%
5	一般消費財・サービス流通・小売り	6.56%	6.42%
6	素材	6.35%	6.31%
7	資本財	5.27%	5.22%
8	エネルギー	3.88%	3.87%
9	自動車・自動車部品	3.37%	3.41%
10	保険	2.88%	2.81%

※ 対現物株式構成比です。

組入上位10銘柄

	銘柄	国・地域	比率
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC	台湾	11.59%
2	TENCENT HOLDINGS LTD	ケイマン島	5.16%
3	ALIBABA GROUP HOLDING LTD	ケイマン島	3.66%
4	SAMSUNG ELECTRONICS CO LTD	韓国	3.32%
5	SK HYNIX INC	韓国	2.08%
6	HDFC BANK LTD	インド	1.25%
7	HON HAI PRECISION INDUSTRY	台湾	1.02%
8	RELIANCE INDUSTRIES LTD	インド	0.99%
9	XIAOMI CORP-CLASS B	ケイマン島	0.94%
10	PDD HOLDINGS INC-ADR	ケイマン島	0.93%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 1,071

市場動向

香港株式市場の中国株は下落しました。月前半は、中国のレアアースの輸出管理強化発表を受けて、米国が対中関税の引き上げを表明したことから、米中貿易摩擦の再燃が嫌気され大幅に下落しました。月後半は、米トランプ大統領が米中首脳会談を実施すると発言し、通商問題を巡る米中対立の懸念後退により上昇しましたが、月末にかけて10月の中国製造業PMI(購買担当者指数)が予想を下回ったことから下落して終わりました。

インド株式市場は上昇しました。月前半は、海外勢の買い期待が投資家心理を支えたほか、IT関連株の好業績が期待され上昇しました。月後半は、米国の利下げや米印間の貿易合意への楽観的な見方などを背景に上昇幅を広げました。

台湾株式市場は上昇しました。米ハイテク株高を背景に、半導体受託生産最大手の台湾セミコンダクターなど半導体関連銘柄への業績期待から上昇しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



SMT 世界経済インデックス・オープン(株式シフト型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2025年10月31日



新興国債券インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 債券評価額には経過利子を含めています。

資産内容

債券	98.01%
債券先物取引	0.00%
短期金融資産等	1.99%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

特性値

直接利回り	5.57 %
最終利回り	6.16 %
残存年数	7.74 年
修正デュレーション	5.33
銘柄数	359

※ 利回り(税引前)は純資産総額に対する値、その他は組入債券に対する値です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	比率
1	インドネシア	9.98%
2	インド	9.88%
3	中国	9.87%
4	メキシコ	9.78%
5	マレーシア	9.51%
6	タイ	8.28%
7	ポーランド	7.64%
8	南アフリカ	7.44%
9	ブラジル	6.92%
10	チェコ	4.67%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10通貨

	通貨	比率
1	インドネシア・ルピア	9.98%
2	インド・ルピー	9.88%
3	オフショア人民元	9.87%
4	メキシコ・ペソ	9.78%
5	マレーシア・リンギット	9.51%
6	タイ・バーツ	8.28%
7	ポーランド・ズロチ	7.64%
8	南アフリカ・ランド	7.44%
9	ブラジル・リアル	6.92%
10	チェコ・コルナ	4.67%

※ 対純資産総額比です。

市場動向

新興国通貨は対円で上昇しました。高市政権の発足を受けた、財政の先行きに対する懸念や日銀の利上げ後ずれ観測が円売りにつながりました。南アフリカ・ランドは、金価格の上昇などを背景に対円で上昇しました。タイでは、利下げを見込んでいた市場予想に反して中央銀行が政策金利を据え置いたことで、タイ・バーツは対円で上昇しました。

新興国債券利回りはまちまちな展開となりました。トルコでは政策金利が引き下げられましたが、長期金利は横ばい圏で推移しました。ブラジルでは、インフレ警戒感が後退する一方で、ルラ政権による財政拡張懸念から長期金利は若干上昇しました。



SMT 世界経済インデックス・オープン(株式シフト型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2025年10月31日



マザーファンドのベンチマーク

※ 各マザーファンドのベンチマークは、以下の通りです。

マザーファンド	ベンチマーク
国内株式インデックス マザーファンド	【TOPIX(東証株価指数)(配当込み)】 TOPIX(東証株価指数)とは、株式会社JPX総研が算出、公表する指数で、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。 TOPIX(東証株価指数)(配当込み)(以下、「配当込みTOPIX」という。)の指数値及び配当込みTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など配当込みTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及び配当込みTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、配当込みTOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。
国内債券インデックス マザーファンド	【NOMURA-BPI総合】 NOMURA-BPI総合とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する、日本の公募債券流通市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組入れ基準に基づいて構成された債券ポートフォリオのパフォーマンスを基に計算されます。同指数の知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、同指数を用いて行われる当社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。
外国株式インデックス マザーファンド	【MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)】 MSCIコクサイ・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した日本を除く世界の主要国の株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。「円換算ベース」は、米ドルベース指数をもとに、当社が独自に円換算した指数です。 MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.はMSCIコクサイ・インデックスの内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
外国債券インデックス マザーファンド	【FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)】 FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性及び完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏又は遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国株式インデックス マザーファンド	【MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)】 MSCIエマージング・マーケット・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した世界の新興国株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。「円換算ベース」は、米ドルベース指数をもとに、当社が独自に円換算した指数です。 MSCIエマージング・マーケット・インデックスに関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.はMSCIエマージング・マーケット・インデックスの内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。
新興国債券インデックス マザーファンド	【JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円換算ベース)】 JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドとは、新興国の現地通貨建債券市場の動向を測るためにJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが開発した、時価総額ベースの債券インデックスです。「円換算ベース」は、米ドルベース指数をもとに、当社が独自に円換算したものです。同指数に関する商標・著作権等の知的財産権、指数値の算出、利用その他一切の権利はJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



SMT 世界経済インデックス・オープン(株式シフト型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2025年10月31日



ファンドの特色

- 世界の株式及び債券に分散投資し、ファミリーファンド方式で運用を行います。
 - 世界の株式及び債券に分散投資を行うことで、リスクの低減に努めます。
 - 各マザーファンドは各投資対象市場の代表的な指数(インデックス)への連動を目指す運用を行います。
 - 原則として、為替ヘッジは行いません。
 - 世界経済全体の発展を享受します。
 - 基本組入比率は、地域別(日本、先進国、新興国)のGDP(国内総生産)総額の比率に基づき決定します。
- ※ 年1回地域別構成比の見直しを行います。

投資リスク

《基準価額の変動要因》

- ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。
従って、**投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**
- **信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆様へ帰属します。**
- **投資信託は預貯金と異なります。**

【株価変動リスク】

株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【為替変動リスク】

為替相場は、各国の経済状況、政治情勢等の様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。

【金利変動リスク】

債券の価格は、一般的に金利低下(上昇)した場合は値上がり(値下がり)します。また、発行者の財務状況の変化等及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。債券価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【信用リスク】

有価証券の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、有価証券の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。

【カントリーリスク】

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化、外国為替規制、資本規制、税制の変更等の事態が生じた場合、又はそれが予想される場合には、方針に沿った運用が困難になり、基準価額の下落要因となる可能性があります。また、新興国への投資は先進国に比べ、上記のリスクが高まる可能性があります。

【流動性リスク】

時価総額が小さい、取引量が少ない等流動性が低い市場、あるいは取引規制等の理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。

【有価証券の貸付等に係るリスク】

有価証券の貸付等においては、取引相手先の倒産などにより決済が不履行となるリスクがあります。貸付契約が不履行となった場合、担保金による有価証券の買戻しの際、時価変動の影響から損失を被り、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

《その他の留意点》

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の換金申込が発生し短期間で換金代金を手当てする必要が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。
これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止、取り消しとなる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



SMT 世界経済インデックス・オープン(株式シフト型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日

作成基準日 : 2025年10月31日

お申込みメモ

- 購入単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入価額 … 購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
- 換金単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 換金価額 … 換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額とします。
- 換金代金 … 原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
- 申込締切時間 … 原則として、販売会社の営業日の午後3時半までにお申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入・換金 … 申込日当日が次のいずれかの場合は、購入・換金のお申込みを受け付けられないものとします。
申込受付不可日
ニューヨーク証券取引所の休業日
ロンドン証券取引所の休業日
ニューヨークの銀行休業日
ロンドンの銀行休業日
- 換金制限 … ファンドの規模及び商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間及び金額の制限を行う場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入・換金申込受付中止及び取消し … 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、投資対象国における非常事態による市場閉鎖、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及びすでに受け付けた購入・換金のお申込みの取り消しを行うことがあります。
- 信託期間 … 無期限(2017年8月25日設定)
- 繰上償還 … 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させることができます。
・受益権の口数が30億口を下回ることとなった場合
・ファンドを償還することが受益者のために有利であると認める場合
・やむを得ない事情が発生した場合
- 決算日 … 毎年6月10日(休業日の場合は翌営業日)です。
- 収益分配 … 年1回、毎決算時に委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して分配金額を決定します。
- 課税関係 … 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。
ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」及び「つみたて投資枠(特定累積投資勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
なお、配当控除あるいは益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用

《投資者が直接的に負担する費用》

■ 購入時手数料

購入申込受付日の翌営業日の基準価額に**3.3%(税抜3.0%)を上限**として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

■ 信託財産留保額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額に**0.1%**の率を乗じて得た額を、換金時にご負担いただきます。

《投資者が信託財産で間接的に負担する費用》

■ 運用管理費用(信託報酬)

運用管理費用(信託報酬)の総額は、以下の通りです。

純資産総額に対して**年率0.605%(税抜0.55%)**を乗じて得た額
(有価証券の貸付の指図を行った場合)

ファンドの品賃料及びマザーファンドの品賃料のうちファンドに属するとみなした額に**50%未満の率※**を乗じて得た額

※2025年9月10日現在、合計で49.5%(税抜45%)以内とし、その配分は委託会社29.7%(税抜27%)、受託会社19.8%(税抜18%)です。(品賃料はファンドの収益として計上され、その一部を委託会社と受託会社が信託報酬として受け取るものです。)

■ その他の費用・手数料

有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用、マザーファンドの解約に伴う信託財産留保額等をその都度、監査費用等を日々、ファンドが負担します。これらの費用は、運用状況等により変動するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「お申込みメモ」、「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



SMT 世界経済インデックス・オープン(株式シフト型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2017年8月25日
作成基準日 : 2025年10月31日

委託会社・その他の関係法人の概要

- 委託会社 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社(ファンドの運用の指図を行う者)
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第347号
加入協会 : 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
ホームページ : <https://www.smtam.jp/>
フリーダイヤル : 0120-668001 受付時間 9:00~17:00 [土日・祝日等は除く]
- 受託会社 三井住友信託銀行株式会社(ファンドの財産の保管及び管理を行う者)

SMTAM投信関連情報サービス

お客様が指定されたファンドに関する情報(基準価額、レポート)や投資に関するコラム等をLINEでお知らせします。

※LINEご利用設定は、お客様のご判断でお願いします。
※サービスのご利用にあたっては、あらかじめ「SMTAM投信関連情報サービス利用規約」をご確認ください。

販売会社

商号等	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○		
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券) ※1	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○	○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社) ※1	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○	○	
株式会社静岡銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第5号	○	○	
株式会社東京スター銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第579号	○	○	
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○	○	
株式会社北國銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第5号	○	○	
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第649号	○	○	
株式会社三菱UFJ銀行 ※1	登録金融機関	関東財務局長(登金)第5号	○	○	○
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○	○	○
野村證券株式会社 ※2	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○	○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○
moomoo証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3335号	○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○

- ※1 ネット専用のお取り扱いとなります。
- ※2 換金のための受付となります。
- ・お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、販売会社へお申し出ください。
 - ・販売会社は今後変更となる場合があります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>

●当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

●ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

●投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。

●投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。

●当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。

●当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。